

山行報告書

通算山行NO	NO・198		報告者	加藤 秀子
年月日	00年12月28日(木)～ 年12月31日(日)			
山行名	年末山行(山スキー)			
山名	西吾妻山(2035m)・会津駒ヶ岳(2132m)・安達太良山(1700m)		天候	晴れ
コース及び タイム	高岡宅12:45⇒東名高速⇒首都高速⇒東北道⇒磐越自動車道・猪苗代磐梯高原 IC⇒レークライン⇒裏磐梯・グランデコススキー場着20:30(車中泊)			
走行距離	下土狩～裏磐梯・グランデコススキー場≒430km			
参加者	CL	後藤隆徳	53	待望の山スキー、やらゾ!
		斉藤富夫	50	
		加藤秀子	51	深雪を滑って大丈夫かな?と不安で一杯。でもやるからにはヤルぞ
目	<p>28日・木曜の午後という事で未だ帰省ラッシュにかからず東名から首都高速・東北道とスムーズに走る。郡山Jctから磐越自動車道に入ると、今までの退屈なまでの暗闇の窓景色が一変した。ライトに照らされふぶく雪がフロントガラスに叩きつけてくる。中山トンネルを抜けると道路は真っ白で、『いいぞオ～。いいぞオ～。こうこなくっちゃ～』と満面に笑みを浮かべて四駆に切り換えた。</p> <p>猪苗代磐梯高原ICから一般道に入ると辺りは一面の雪世界。雪はますます激しくなり明日のラッセルに不安を感じる。気温は-1度。それ程寒く感じない。五色沼を過ぎると見覚えのある《エンドウ薬局》の看板に、西吾妻での会長の有名な《糞・騒動》の出来事を思い出した。</p> <p>あれは3年前の秋の会山行での事だ。白布峠から登り始めて、暫くは良かったが会長の様子がどうもおかしい。足元がふらつき額に油汗が浮かんでいる。ザックを背負うから・・・と言っても『大丈夫だ。何でもない』と言うばかり。他のメンバーも様子に気がつき、歩いていても気が気ではない。心配しいいぞやと西大巓に着いた。</p> <p>会長は身体を折りながら腹を押さえ、顔を歪めて『もう限界だから此処からグランデコススキー場へ下る。皆は水落をリーダーに東吾妻から登ってくる佐野隊と合流して欲しい』と、苦しそうな息を吐いた。それを見つめる皆の顔は目が潤み、今にも泣きだしそうだった。心配で山どころではなかったろうに。でも指示に従った。《西吾妻》と聞くと、あの時の会長の腹から絞り出すような《指示》と、それに従う皆の表情が今も私の脳裏に焼きついている。</p> <p>結局、便秘で《糞》が詰まっていたという事であったが、《たかが便秘、されど便秘》、決して便秘を侮る事なかれ。皆さん。フンと～よ。</p> <p>そんな懐かしい、今では笑い話になってしまった思い出話を斉藤さんに話しているうちに、今日の宿泊地グランデコススキー場へ着いた。広い駐車場をグルグルまわり、トイレ施設のある恰好な軒先を拝借することに。明日はAM5:30起床だ。少しは朝寝が出来るぞ。長い道中で疲れた身体に、すこ～しエネルギーを流しシュラフに潜り込んだ。</p>			

山名	西吾妻山 (2035m)		天候	晴れのち時雨
この山のセールスポイント	樹林帯の深雪に表裏一体の喜びを味わう。苦しみあってこそその滑りを！			
コース及びタイム	起床:30~ Gondola 7:20/7:40~西大巔10:00 ~西吾妻 11:15/11:30 (滑降) ~ゲレンデ着 15:00/15:20→松枝岐 21:30 (ひらのや) 泊			
標高差	△S 1400 ~T 2035	≒ 635 m	体力度	1・2・3・4・5・⑥
	▼T 2035 G 1050	≒ 1000 m	技術度	1・2・3・4・5・⑥
走行距離	~	≒ km	展望度	1・2・3・④・5・6
参加者	CL	後藤隆徳 53	今度は春に期待 (来たい) ナ~。	
		斉藤富夫 50		
		加藤秀子 51	ラッセルは苦しくて大変だ。でもいい。それ以上の喜びがあるから。	
二日目	<p>未明の3時。グッスリと良く眠っていた所を巡視員に起こされた。駐車場に移動し、もうひと眠りした後起床。ゴンドラの発時間に合わせ、朝食と身支度を済ませる。広い駐車場は瞬く間に車で埋まっていた。</p> <p>券の発売所に行くと、途中迄のゴンドラは運転しているが、その先のリフトは9時始発といわれ、止むを得ずゴンドラの終点から歩く事になった。降り立つと目前は樹林帯の深い雪の固まりの山である。均された雪の間に木が点々と、ならまだ良い。間隔の狭い木の間に、あんぐりとしたスプーンですくったアイス、カパッとひっくり返したような雪がポコポコと固まりになって点在している。その間を縫うようにシール登行するのは並大抵の技ではない。行く方向を立ち止まっては定め、枝の張った下を亀の首のように屈め、ストックでバランスをとりながら進む。ゲレンデのトップ迄30分。気温は-5度。しかし汗は吹き出し暑い。衣類の調整後、休む間なくシール登行を開始。斜面は段々と傾斜を増し、ラッセルは深く板を付けたままの状態膝までもあった。陽射しの中でダイヤモンドダストがキラキラと樹林の上に降りそそぎ、本物のダイヤ顔負けの美しさに感嘆する。</p> <p>ふと上を見ると、丸いピークらしいものが見える。西大巔だ。気がつくともどりの木はいつの間にか背丈が低く、ポコリと雪をかぶっている。『可愛い~い。此れがモンスター?』と喜ぶ私に、《あさぎり》の斉藤さんも、『まるでオブジェの芸術展だね』と相槌をうつ。雪のつき方が色んな表情を表し面白い。《雪の風紋》や《えびの尻尾》を見るのが雪山の楽しみの一つになっているが今回の山は両方ともなかった。モンスターのできる所には出来にくいのかな。</p> <p>西大巔から西吾妻の方向はガスで全く見えない。CLが地図とコンパスで方向を定める。一旦50m位下って又登りになるが、ガスの切れ間に見えた西吾妻はモンスターの林立群で、さすがのCLも、何処から攻めようか目前で躊躇していた。そして、入り組んだモンスターの</p>			



(上) 会津駒のキビシ
— 登り
(中) あさぎりの春藤さん



(上) 会津駒ヶ岳バックに
(中) 越ヶ岳
(下) ゴッシーの滑り

間の雪をかき砕き果敢に挑む。斉藤さんとその様子を見て《つぼ足》に変えてみたが、ズボッと腰上まで埋まる雪にととも歩く事はできない。又、シール登行でも一度転ぶと、一人ではなかなか起き上がれず、その度斉藤さんに助けてもらいやっと頂上に到着した。しかし、ガスで展望はない。時間も気になりそそくさと下山を開始する。樹林帯から西大巔までは登り返しがある為再びシール登行で行く。

さあ。いよいよ初滑りだ。ガスは多少あるが気になる程ではない。膝の屈伸を少しして態勢を整えた。先ずCL。膝上までの雪を強引にかき分け、樹林帯の中に器用にトレースを付けていく。私はその後を、後傾姿勢でキッチリとなぞっていく。これだ。この手応え、この感触だ。『イヤッホー!』と、思わず雌叫びを上げ振り返ると、斉藤さんはこの深雪をパラレルでスイスイと滑ってくる。『さすがに上手いな〜』とCLが心底感心していた。登った疲れは何処へやら、大自然の懐で、規制に嵌まらず自由にトレースを刻む。深雪だが雪は軽く、思っていた以上に滑りがいい。十分楽しめた。

しかし、滑り込んでいくうちに樹林帯の木の間隔が狭くなり、いつしか斉藤さんが遅れ出す。樹林帯の滑りは経験がないので、踏ん張り過ぎて大腿部に負担がかかり、7月に傷めた膝がぶり返したらしい。無理をしないようにと滑り出すが、途中からあまりの雪のデコボコにシール登行に変える。が、私はシールがなかなかつかない。板もシールも濡れてつきにくいのだ。それでも持っていた板締め具を利用して何とか歩き出してみた。やっぱり直ぐに剥かれてしまう。CLはルート探して先行していた。遅れては・・・と気が焦って板を脱ぐと、今度は胸まで埋まり慌てて板を付けようとしても足が板まで上がらない。身体を前後に押し倒しながら雪を押し退け、平らな場所までユッサユッサ胸ラッセルだ。

今度はシール無しの板登行を試みた。しかし、下り勾配の危ないトラバースはととも無理だ。全てお手上げ。途方にくれて涙が滲む。その時、遅い私達の様子を見に来たCLが、事情を聞き、ビニールテープでしっかりとシールを固定してくれた。『いつもテープは持てと言っているだろう』と雷つきで。今回の教訓です。

今度はルートである。尾根のひとつ手前を下りすぎて前方は岩壁になった。もう一度登り返した方が無難だ。時間も大分くってしまっただけで今夜はビバークになるかもしれないとCL。本来なら、今日は桧枝岐の民宿泊の予定だ。車でゆうに4時間はかかるだろう。でも何故か不安はない。10分位で登った時のトレースを見つけ直ぐ下で音楽が聞こえる。ゲレンデは間近い。人の多いゲレンデは一気に滑り、グランデコススキー場を後にした。

桧枝岐までは、近いつもの峠越えが色々なアクシデントで、やっと着いたのはPM9:30である。民宿のオーナーは、そんな私達を嫌な顔ひとつせず心良く出迎えてくれた。食事の膳には山菜のあえ物、岩魚のポイル焼き、煮物、けんちん汁、天ぷら等と手作りの御馳走が次々と運ばれ、食べ切れない程の品数に嬉しい悲鳴をあげる。食事中、旦那さんが膳の傍のコタツで相手をしてくれ、料理を出し終わった奥さんがその横で『いいかしら』と晩酌を始めた。観光化されていない民宿の良さをしみじみ味わった一晩である。

12月30日(土)

会津駒ヶ岳 (2132m)

記録 斎藤 富夫

04:45 起床 朝食を済ませ登山口へむかうが車を停めるスペースがない。

登山口前の民宿の庭に駐車させてもらう。民宿はまだ誰も起きておらず昨夜宿泊した宿より連絡してもらうことにして身支度を整える。

積雪は70~80cmありスキーを着けて 06:23出発。

西吾妻山同様に未だ誰も山に入っていないと思っていたが、林道にはワカンの跡が点々と続いている。

そのワカンの跡を左右に横切る獣の足跡がアチコチにみえる。シカの足跡らしい、などと話していると前方の雪のなかで、もがいているカモシカが目に入る。

深雪にカモシカも身動きが大変らしく胸まで雪に浸かって必死にラッセルしていた。

加藤さんは、その姿がかわいいと言って大はしゃぎする。

しばらく行くと小さいテントが、林道の脇に張ってあるのが目にとまる。

はたして、ワカンの主で昨日の夕方登り始めたとのこと。横浜から単独で来た20才台の若者で丁度出発しようとしていたところだったので同行する。

階段の所で林道から別れて本格的な登りになる。

しばらくは、林間の急登がつづく。スキーの先が雪に埋もれてしまいうまくターンする事ができず汗ビショリの苦闘。ワカンでは、この新雪は更に大変らしく若者は徐々に遅れだす。

天気は、上々で雲一つない。 08:42 ヘリポート広場に着く、10分程休憩。

ここからは、緩急交互の登りで幾分か楽になる。高度をかせぐにつれ展望も良くなり左手後ろには尾瀬の~~遊~~跡が秀麗な山容を見せ、真後ろの遥か遠くに日光白根山が顔を覗かせる。やがて、会津駒のゆったりとなだらかな山頂が前方に姿を現す。

標高差1200mをラッセルでの日帰りはきつい。休憩もほとんど取らずに先を急ぐ。

息はあがるし、古傷の右膝も痛みだしてきた。わずかな下りにさしかかった時、登りでは感じなかった強い痛みが膝を襲った。靭帯を伸ばした膝は下りがつらい。

このままなんとか二人に付いていっても帰りが大きく遅れてしまう事が明瞭になったので残念ながらここ(≒1700m)でリタイヤする。

登高をつづける二人を見送り、ゆっくり下山開始。11:00。

スキーを履いたままでは痛くてダメでツボアシでの下山。

14時まで攻めたという二人にも抜かれ16時近くになって車に到着。

情けない年末の山行となってしまった。

上り ≒ 930 ~ 2020 ≒ 1090
 下り " ≒ 1090
 最高到達点
 ≒ 2020年まで

12月31日

安達太良山 (1700m)

昨日の疲れがまた、カレントのトッポから五葉松尾根をゆく、雪が少なくスキーはムリなので途中でテボ、頂上へ着くとガスが晴れ360°の展望、今年最後の山に小まかかった。安温泉で今山行のアカを落す、近くの食堂の酒とヒレカツがうまい。(オト)

今山行の反省 (5/15) CL 後藤隆徳

1. 西大巔から グランテコスキー場への広い尾根の滑降で左に寄り過ぎて 2 時間ロスをした。これといって特徴のない尾根の場合 どうしても滑り易い方へ流れる。赤布は沢山用意してあったので、もつと使うべきだった。
2. 低温下でのシールははがれ易い。あらかじめビニールテープなど用意して補強する。
3. 深雪のラッセルで馬力がない。スキーは軽めが良い。
4. 松枝岐へのアプローチでナビを一人にまかせてしまいルートと誤り到着が遅れた。結果的に翌日出発が遅れ登頂に影響が出た。2人はすでに5月同ルートと経験しているので、全員で当るべきだった。
5. また道路は平面で近くとも、峠など上り、下りが加わると大幅に時間が掛ることを計算する。
6. 会津駒の登りでは元気のいいラッセラーが 2~3名必要だった。
7. あさりの春藤氏は当初 餓鬼岳の予定だったが、重荷でのヒザを考えスキーにした。それは正解だった。早く故障を直して捲土重来を期待する。
8. この時期の山スキーは当然 深雪滑降である。普段 グランテでは経験のない難しさがある。それが面白くこの時期に来るのだから、これに懲りずに再挑戦してもらいたい。
9. 安達太良は表日本の気候だから、この時期スキーはまだ早かった。あきたらスキー場で 2m は必要か。
10. 31日帰宅はスキスキーで正解だった。

